

新石垣空港滑走路の800メートル延長、国際線ターミナルビルの山側移転及び国内線ターミナルビル拡張を求める要請決議

新石垣空港は、中型ジェット機が就航可能な2,000メートルの滑走路を有する空港であり、沖縄県が管理し平成25年3月に開港した。

新石垣空港開港後は、本土主要空港との直行便就航等で、乗降客数及び貨物取扱量とも沖縄県の当初計画将来需要予測を大きく上回る伸びを示している。計画では、平成33年度の見込み数は260万人とされているが、平成29年度の時点で乗降客数は250万人余を記録しており、3年前倒しで達成される見込みである。

航空関係者は、B767（264人乗）までは想定していたが、昨今のリピーター客の中には直行便を望む声が強く、B787-8（335人乗）、B777-200（405人乗）と大型化、増便対応してきたが、それでも需要に応じ切れない状況にあるという。

また、新規航空会社の就航や国際線就航も増加し、税関空港指定、食肉センターのHACCP（ハサップ）対応による輸出も見込まれている。

よって当市議会は下記の項目について強く求める。

記

- 1 滑走路を800メートル延長し、中距離国際線標準に対応できるように、800メートルとすること。
- 2 国際線ターミナルビルは山側へ移し、青い海と空港の持つ旅情などを同時に愉しめる景観を提供できるように、移転整備すること。
- 3 狭隘化している国内線ターミナルビルの拡張をすること。

以上、決議する。

平成30年10月17日

石垣市議会

宛先

内閣総理大臣、国土交通大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、沖縄県選出国會議員、沖縄県知事、沖縄県議会議長、地元選出県議會議員